

小倉城跡 改訂版(比企郡ときがわ町)

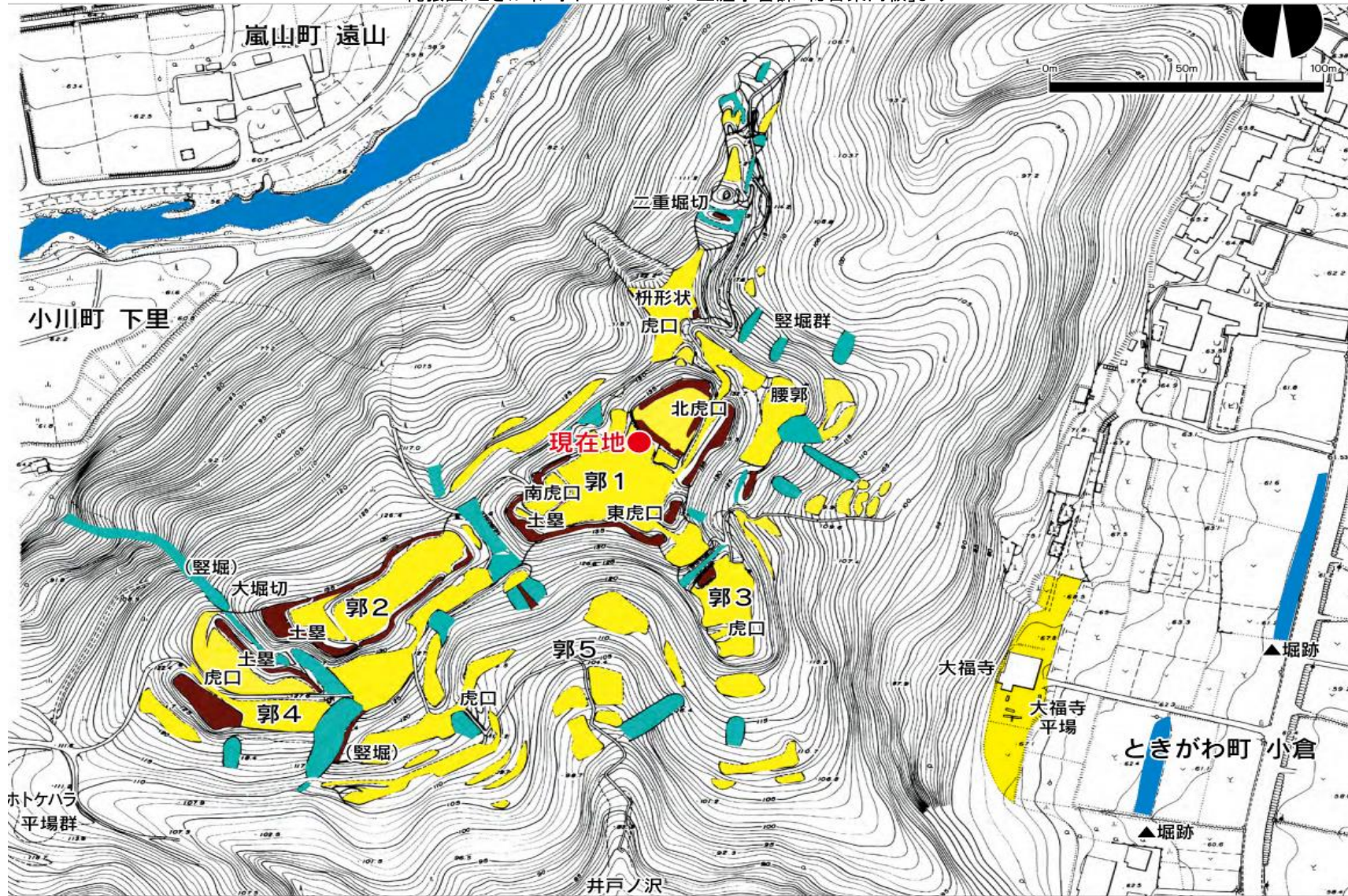
正面前方に大福寺の本堂が見える/その背後の山に小倉城跡が展開している

[video](#)



山麓の大福寺の平場は居館跡とされ、手前の畑には堀跡の遺構が認められると云う





本堂手前に「小倉城跡入口」と記された表示板が立っている

 [video](#)



本堂右手のここから、「いざ、登城！」



こんな感じの山道を登って行く



途中、急坂になる辺りで山頂方向を見たところ

 video



そこで右手を見ると、やや緩やかな平場跡のような地形が見られるが、このエリアも腰郭としての遺構の一部のようだ

 video



急坂を登ると、前方の上部が郭1/手前で山道が左右に分かれている

 video



そこで、左手を見たところ/前方上部は郭3



同じく、右手を見たところ/前方上部は郭1/こちらを進むと、郭1の北虎口方面に至る



同じく、登って来た方向を見下ろしたところ/このルートは大手道らしいが・・・

 [video](#)



右手に折れると、堀状の窪みがある(横堀のようだ)/左上は郭1



左上を見上げると、上部の郭1からその横堀に下り落ちる豎堀がある

[video](#)



こな塩梅



少し進むと、右手に説明板が立っている/前方の上部に進むと東腰郭のエリア

 video



正面の東腰郭の城壁に、石垣(石積)が見られるようだ

郭1(本郭) 東腰郭石垣※

斜面に盛土して腰郭を造成し、正面と両側面に石垣を普請しています。現況で高さが3.5m程あり大福寺方面から登ると郭3の石垣と合わせて両側から威圧するように城正面を化粧しています。往時は山麓から見渡すことができたようです。石垣の石材は、地山に由来する結晶片岩で石の性質に基づき平石を水平に積んだものとなっています。戦国時代後期(16世紀中頃から後半)に地域で発展した貴重な遺構です。



▲ 本郭東腰郭石垣位置(赤丸部分)

※ 城郭石垣の呼称については様々な研究があります。ここでは積まれた高さが、3m以上あるため便宜的に石垣の呼称を使用しました。

(ときがわ町教育委員会)



▲ 腰郭石垣正面(南東より)



▲ 腰郭南側面と正面(南より)



▲ 腰郭石垣北側面(北より)

そこで、振り返って見たところ/右手の山道を登って行くと郭1の東虎口及び郭3に、左手の山道を進むと郭3の城壘側に、そして左手に下って行くと大福寺へと至る




これが東腰郭の城壘の石積/上部が東腰郭のエリア



結晶片岩(地元の緑泥石片岩)の平石を水平に積んだ様子が見て取れる



こんな塩梅

 video



さて、このエリアが東腰郭/南側から見たところ

 [video](#)



西側から見たところ

[video](#)



東側から見たところ/前方上部は郭1

 video



本郭1(左手)を回り込むように進む



前方に柵形状虎口が見えて来る



左上を見ると、ここが郭1の北虎口

 video



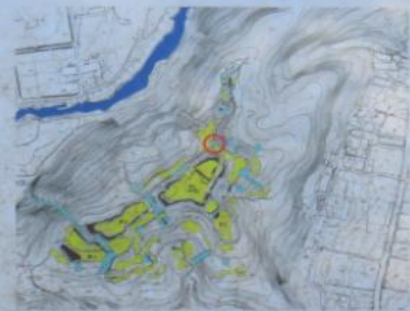
ここが枡形虎口/説明板が立っている

 [video](#)



枡形虎口 (ますがたこぐち)

虎口内側の岩盤を直角に掘削して内枡形に通路を規制しています。ここは本郭北虎口をスロープで下った先の重要な場所で、虎口両袖には、石材が確認でき石積みを伴う堅牢な造りとなります。同じ構造をもつ郭1北虎口の成果から虎口正面には門の設置が想定されます。定型化した近世城郭の枡形虎口には一ノ門、二ノ門が置かれます。ここは規模も小さく未調査のため二ノ門が置かれたかは不明ですが、戦国期の虎口の姿を良く伝える貴重な遺構となります。



▲赤丸部 枡形虎口位置



▲枡形虎口内側（南から）



▲赤点線—推定門袖部下端、白点線—袖部上端
▲黄色点線—枡形岩盤掘削下端、黒点線—枡形岩盤掘削上端




▲枡形虎口外側正面（東から）



▲枡形虎口内側（西から）

この柵形部分を右手に回り込んだ所が虎口正面で、門(二ノ門らしい)が設置されていたと云う

 video



柵形を構成する土塁の上から見たところ/正面の柵は、近年前方の斜面が崩落したための立ち入り禁止措置



枡形部分からその土塁を見上げたところ/左手が虎口正面となる



そこで、右手を見たところ/前方の上部が郭1



同じく、左手を見たところ/ここが虎口正面/ここに門があったとされる

 video



その虎口の先は、前方で左手に折れてなだらかに下っている



左手に折れた先を見たところ/この少し先には二重堀切があり、この方面から登ってくる敵を防御する仕掛けとなっている



そこで、振り返って枡形虎口方向を見たところ

 video



二重堀切を突破してきた敵は、この虎口正面にあった門に遮られる



その門を突破しても、この枡形空間を進まざるを得ないということになっている

[video](#)



さて、少し先の二重堀切を見てみよう

 video



少し進んで左手を見上げると、正面に土塁、その左手には低い土塁、そして双方の間には堀切が見て取れる

 [video](#)



これが左手の低い土塁/右上が高い土塁、左手は柵形虎口から続く城塁(切岸)

[video](#)



左手を見たところ/枡形虎口から続く城塁(切岸)と低い土塁(右手)との間にも堀切がある

[video](#)



その堀切を見たところ/右手が低い土塁



そこで、右手を見たところ/手前の低い土塁の向こうが堀切で、その更に向こうが高い土塁



高い土塁の上に登って、枡形虎口から続く城塁(切岸)方向を見たところ/南方向に見たところ

 [video](#)



下方の二重の堀切を見たところ




そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



振り返って、反対方向(北方向)を見たところ

 video



その先は一寸した平場が続いている



その平場から振り返って、高い土塁を見たところ/南方向に見たところ

 [video](#)



これは二重堀切の更に北方向に進んだ所にある平場/腰郭のようなものか・・・



その脇はこんな塩梅の堀になっていた



そして、ここから更に北東方向に下って行くと、麓の道路に出るようだ



さて、柵形状虎口まで戻ると、右手に上がった所が郭1の北虎口/左前方が東腰郭のエリア

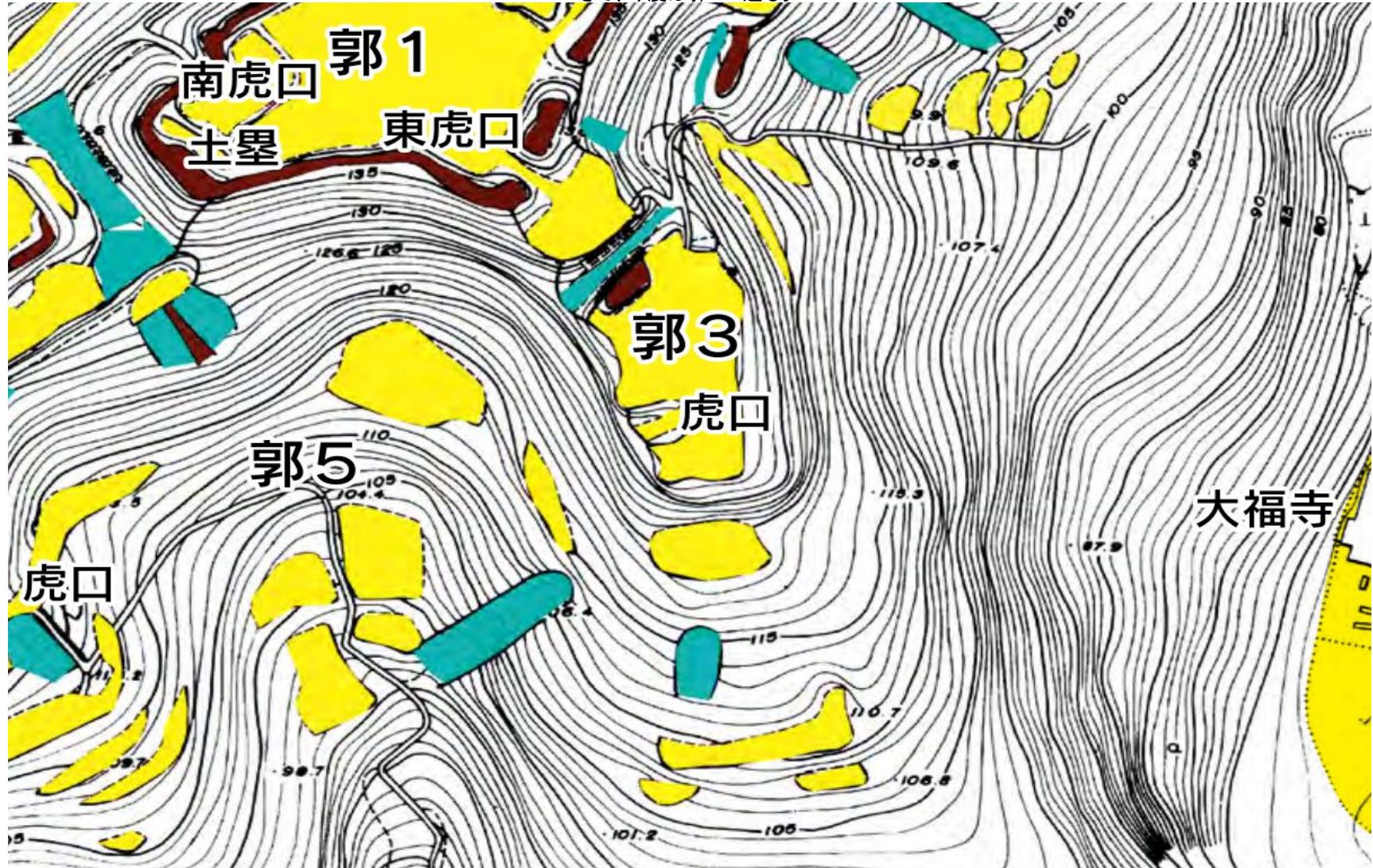


ここが北虎口/ここに一の門があったそうだ/この向こうが郭1の内部

 video



さて、今度は郭3へ進もう



右手の山道を登って行くと郭1の東虎口及び郭3



正面が郭3/右手に登ると郭1の東虎口



ここは郭1の東虎口手前の平場(腰郭)/右奥が東虎口



これが郭1の東虎口/この向こうが郭1の内部

 video



そこで振り返って、郭3方向を見たところ/この平場と郭3との間には堀切がある/南方向に見たところ



これがその堀切/向こうが郭3

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



左手に下りて、堀切を東側から西方向に見たところ

 video



こな塩梅

 video



岩盤を削り掘っている



反対に、西側から東方向に見たところ

 video



そこで左手を見ると、石積が見える

 video



こな塩梅



反対側から見たところ



平石を水平に積んだ様子が見て取れる



これは郭3を北側から南方向に見たところ

 video



そこで、右手を見ると堀切に沿った土塁がある



更に右手を見たところ



これはその土塁を南側から北方向に見たところ/前方に郭1の東虎口が見える

 video



この土塁には石積も施されている

 video




その土塁の上から堀切を見たところ

 video



こな塩梅

 video



これは郭3の南側から北方向を見たところ



振り返ると、郭3の南側には窪みがあった

 video



これはその窪みで、東側から西方向に見たところで、前方は虎口となっている

[video](#)



反対に西側から東方向に見たところ

 video



そこで、右手を見たところ/土塁の側面に石積が施されている



同じく、左手を見たところ



その更に左手を見ると石積が見える

 video



こな塩梅



その更に左手を見たところ/この先は、先程の郭1東虎口前の平場と郭3との間にあった堀切の西側に続いている



これは郭3の南下を見たところで、このエリアにも平場(腰郭)が展開している

 video



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



さて、郭3の東側の城壘下に進んでみよう/右上が郭3



岩盤の横に、説明板が置かれていた



郭 3 石 垣

郭3外面に累々と積まれた石垣は、最大高約5m、総延長100mに及ぶ小倉城跡の中で最大規模の石垣です。この城の大きな特徴でもある石垣は結晶片岩系の石材を使用し、基本的に石材の長辺を正面に据えた筋の通った平積を基調とし結晶片岩の特性を活かした理にかなった積み方しています。



▲ 郭3 石垣位置図

また城正面と推定する大福寺方面から登城すると郭1腰郭石垣と合わせて両側に壁のように立ちふさがって見え、一定の視覚効果があったと思われます。なお、この小さな腰郭のすぐ下方からは投下されたように「かわらけ」が出土していて何らかの儀礼行為が行われた可能性があります。

(ときがわ町教育委員会)



▲ 郭3 石垣東面(北から)




▲ 郭3東面(南から)



▲ 腰郭出土「かわらけ」大・中・小

その上部を見上げると、石積が連続している

 video



アップで見たところ



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ

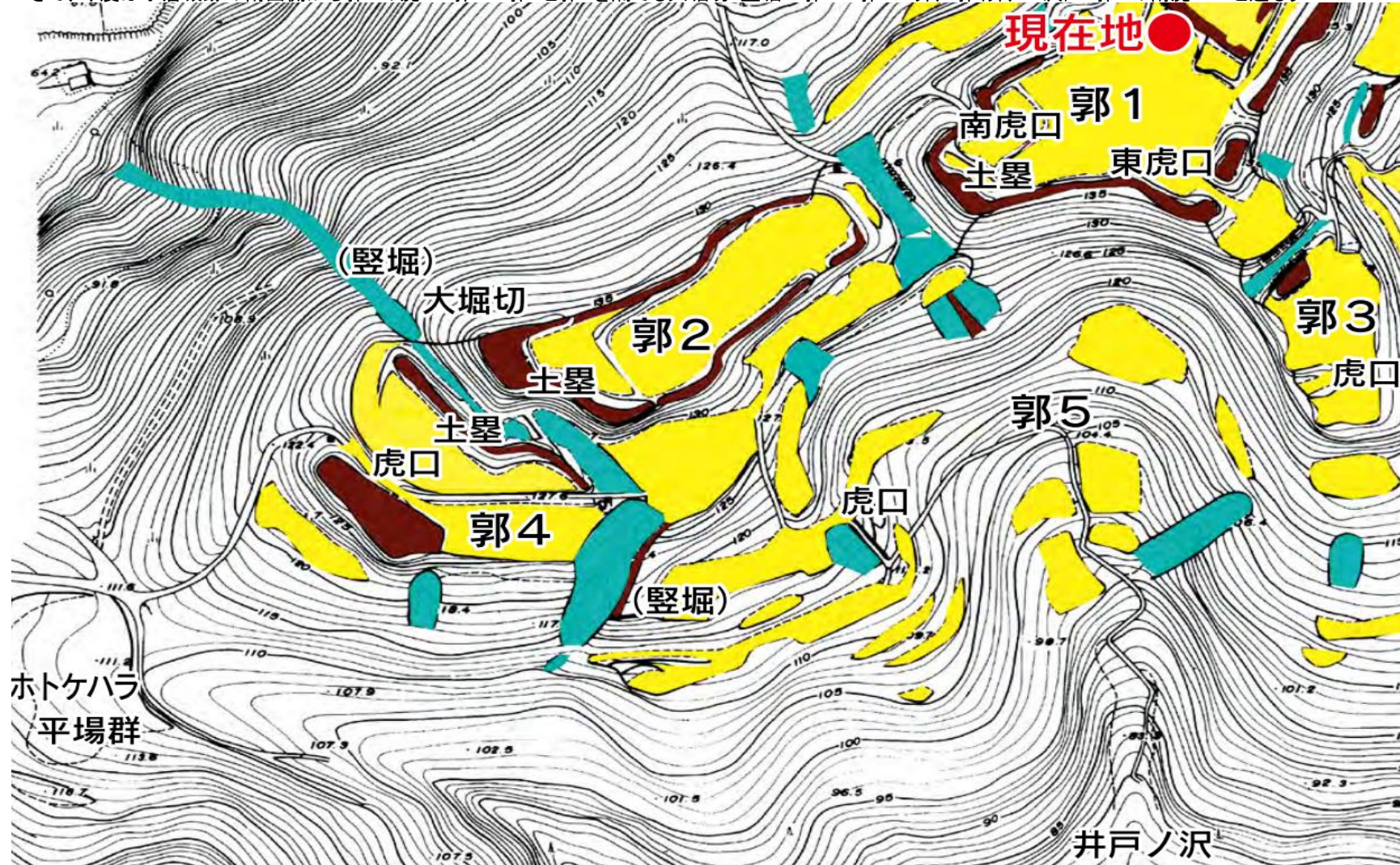


その更に右手を見たところ

 video



さて、今度は小倉城跡の南西側から郭4の虎口・郭4～郭2と郭2を隔てる大堀切・竪堀～郭2～郭5～井戸郭(井戸ノ沢)～郭1の南虎口へと進もう



ここからホトケハラ平場群脇を通過して郭4の虎口へと向かう

[video](#)



ここからのアプローチは、このように緩やかに登って行くだけで小倉城跡に到達できる



正面前方に郭4の城壘が見えて来る

 video



この先を右手に登って行く/手前に説明板が立っている




ここを右手に登ると小倉城跡郭4の虎口、真っ直ぐ下って行くと青山城跡(比企郡小川町)方面、左手のエリアにはホトケハラ平場群が展開しているようだ



こちらが右手の、小倉城跡郭4の虎口方向



右手前にある標柱(小倉城跡入口と記されている)と説明板

 video



ホトケハラ（仏原）平場群

このあたりは、地元の口伝でホトケハラ（仏原）と呼ばれています。付近からは暦応元年（1338）、応永十二年（1405）、応永十四年（1407）の年号を含む9基分の板碑片、25基分の板碑の台石、台石片が出土しており、かつては多くの板碑（石製の塔婆）が立つ場であったようです。そのようなことから、この辺りは仏原と呼ばれるようになったのかもしれませんが。



▲ ホトケハラ（仏原）平場群位置図（赤塗部分）



出土した板碑 ※

キリシタ
(漢字)
応永十四年
正月日

キリシタ
(漢字)
応永十二年
二月十二日



出土した板碑台石 ※

付近は小川町との境界部分で、小川町分には対岸の小倉城跡郭4と対峙するように小倉から下里へ抜ける道を挟んで平場が展開します。平場群の性格は、板碑の立つ信仰の場に関連するものであったのか、井戸の沢方面や小倉地区の南側から下里へ抜ける道に対応する城郭遺構の一部であったのかは、発掘調査も行われておらず不明です。

※ 『小川町史』資料編3 古代・中世2より転載

(ときがわ町教育委員会)

さて、郭4の虎口方向へと進むと城壘が見えて来る

 video



アップで見たところ



その右手を見ると、城壘の南下には平場(腰郭)があるようだ/後程、見てみよう



さて、虎口へと進む



これが郭4の西側にある虎口



ここが郭4/西側から東方向に見たところ



振り返って虎口を見たところ/左手のマウンドは土塁

 video



その土塁上に登ったところ



そこで、左手を見下ろすと、南下の平場(腰郭)が見えた

 [video](#)



その少し左手に移動し、南下を見ると縦堀状の窪みが見て取れる

 video



南下の平場に下りて、その豎堀を確認してみよう/左上が郭4



正面がその豎堀

 [video](#)



豎堀の向こう側に進んで、振り返って見たところ

 video



堀底に下りて、南方向に下って行く先を見たところ

 video



振り返って、郭4方向を見上げたところ

[video](#)



さて、これは郭4で北方向を見上げたところ/この上部には土塁があり、その先に郭2との間の堀切があるようだ



その上部の土塁を西側から東方向に見たところ/左手が堀切



反対に東側から西方向に見たところ/土塁の右手が堀切

 video



同じく、土塁の上に登って見たところ/右手が堀切

 video



右手の堀切底に下りて見たところ/右上は郭2

 video



さて、ここは郭4の東側にある虎口状の土塁の切れ目/土塁の向こうが、郭4と郭2との間にある堀切/前方は郭2の南下の平場で、郭2に沿って細長く
続いている帯郭



そこで、右手を見ると説明板が立っている/説明板の背後は堀切に続く竖堀

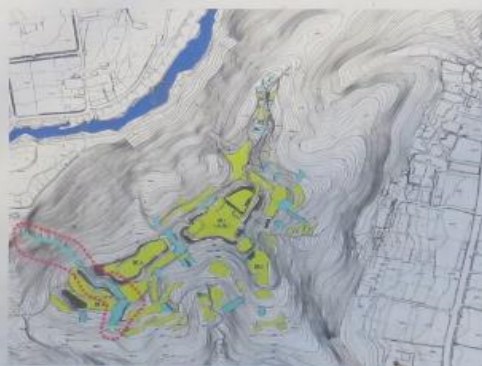
[video](#)



郭4の東側の虎口状の土塁の切れ目は、本来土塁の切れ目があったのではなく、郭4は木橋によって郭2の帯郭と連結されていたようだ

大堀切（おおほりきり）

小倉城跡最大の堀切です。クランクした横堀を普請し、その両端に縦堀を接続して、尾根を完全に断ち切って郭2と郭4を配置しています。この郭の東端に虎口状に開口した部分と前後に続く道は、後世に往來の便を図るために開削されたもので、往時は土塁により閉鎖されており、郭4ー郭2間の往來は橋により規制して行っていたものと想定されます。なお、郭2東端には、平面形が凸状に突出し立面は土壇状となった場所があります。その位置は推定橋に対し横矢かがりの関係にあって、この城の縄張り上の見所となっております。



▲ 小倉城跡と大堀切の平面図（赤点線部分）

（ときがわ町教育委員会）



▲ 横矢がかり（推定橋と推定檜台）



▲ クランクした横堀



▲ 推定檜台より（横堀と先端に接続する縦堀）

そこで振り返って、郭4を東側から西方向に見たところ/郭4の平場は二段構造(北側が少し高い)になっているのが見て取れる



さて、これは説明板左手に堀切を見たところ/前方上部が郭2



こちらは説明板右手に豎堀を見たところ



豎堀底に下りて、豎堀が下って行く方向を見たところ

 video



その先端はこんな塩梅

 video



そこで、振り返って上部を見たところ



その左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



豎堀底を上に登って、虎口状の辺りを見たところ/左手が郭4、右手は郭2の帯郭/前方の上部は郭2

 [video](#)



そこで、左手の郭4方向を見たところ



同じく、右手の郭2の帯郭方向を見たところ



これは郭2の帯郭から郭4方向を見たところで、豎堀(左手)の上部の堀切部分は土橋で連結しているようになっているが、実際には木橋が架けられていたようだ/堀切は右手(北方向)に続いている



そこで、左手を見たところ



現状土橋となっている郭4の虎口状を見たところ



その右手に、郭4と郭2との間にある堀切を見たところ



その堀切(縄張図では大堀切とも)を北方向に進もう/左手が郭4、右手は郭2

[video](#)



岩盤を削り込んでいる



ここで、堀切(大堀切)は少し左手に折れて、また北方向に続いている

 video



こんな塩梅



その先の堀切/左手が郭4、右手は郭2

[video](#)



これは、そこで振り返って堀切(大堀切)を見たところ/正面の上部は郭2



堀切を更に北方向に進む/左手が郭4、右手は郭2



そこで、振り返って南方向を見たところ/左手が郭2、右手は郭4



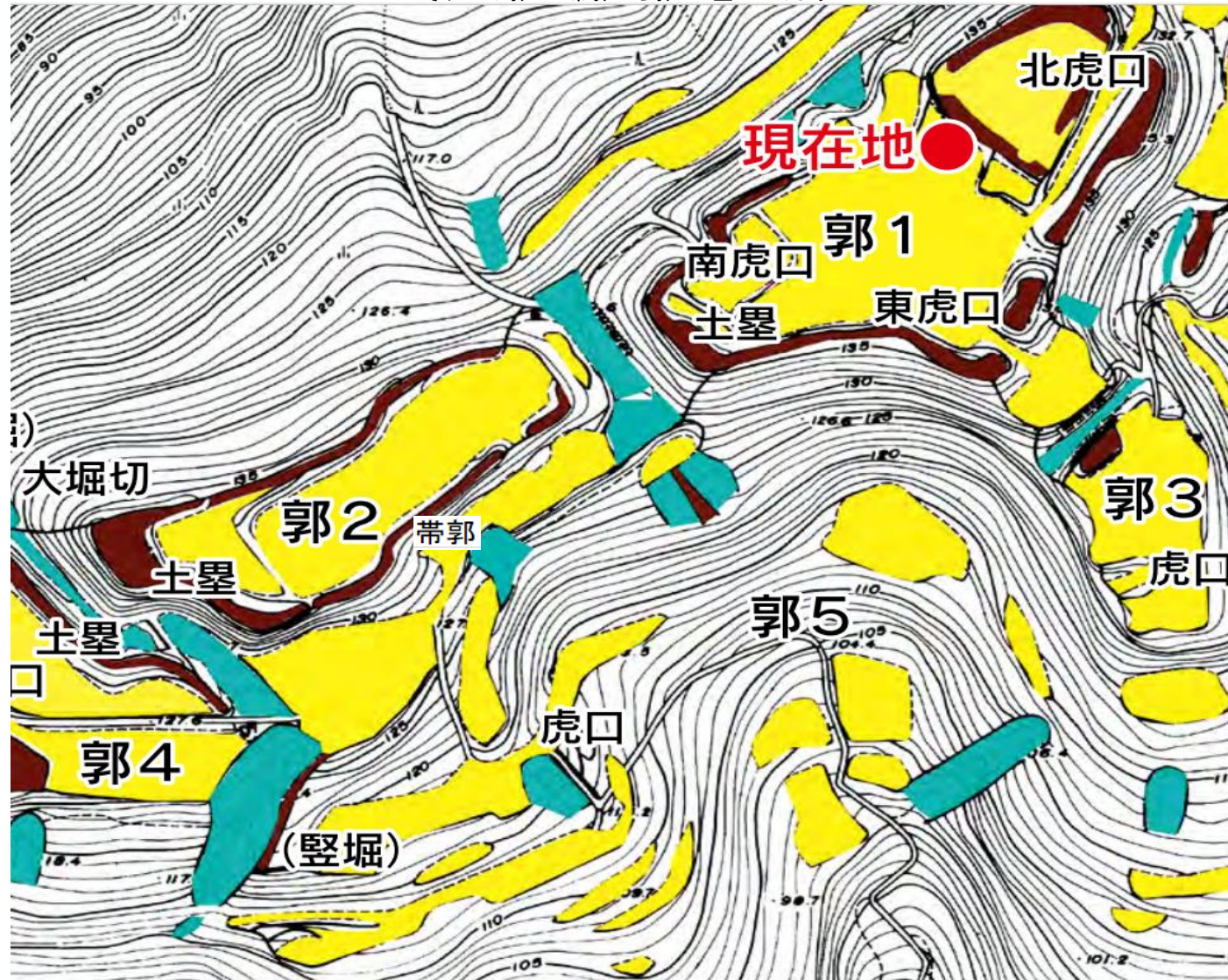
そして堀切はここで豎堀となって北側に下り落ちている



そこで、振り返って南方向を見たところ



それでは郭2の帯郭から郭2に登ってみよう



郭2の帯郭を東方向に進む

 video



郭2の南下に沿って、細長く続いている



最近木々が切られたようで、まだ置きっ放しになっている

 video



そこで、右下を見たところ/南下にはこのように幾つもの平場(腰郭・帯郭)が展開している

 video




ここは帯郭の東側/前方に郭1の城壘が見える/郭2と郭1との間は堀切で断ち切られている



そこで、振り返って西方向を見たところ/右上が郭2



左手を見ると大きな抉れがある


 video



その袂れの右手には、南下に下りて行くルートがある/こちらに進むと、南下に展開する平場(腰郭・帯郭)や郭5及び井戸郭(井戸ノ沢)がある/後程、行ってみよう



正面の城堡(切岸)の上が郭1

 video



これが右手から見た、郭2(左手)と郭1(右手)との間の堀切

 video



さて、帯郭から郭2へ上ってみよう/ここはその虎口

 [video](#)



これは郭2を東側から西方向に見たところ

 video




今上がった南側の虎口を見たところ

 video



郭2の中央付近で、西方向を見たところ/周囲には土塁が回っている

 video



そこで、振り返って東方向を見たところ



そして北側にもこのような土塁が回っている



その土塁を右手から左手方向に見たところ



これは西側の土塁/南側から北方向に見たところ

 [video](#)



そこで、振り返って南側に続く土塁を見たところ



これは西側の土塁上から、郭2と郭4との間の堀切(大堀切)を見下ろしたところ/左下は豎堀



その右手を見たところ/堀切(大堀切)の向こうは郭4の土塁



更に右手を見たところ/堀切が少しクランクして右手(北方向)に続いているのが見て取れる



これは郭2の北西隅の方向を見たところで、前方で地盤が上がっている



こんな塩梅/この上段のエリアは櫓台跡とされる



その櫓台跡を見たところ

 [video](#)



そこで、振り返って南方向に土塁を見たところ/右下が堀切(大堀切)



その堀切(大堀切)を見下ろしたところ/前方で竖堀となって下り落ちている



その更に右手を見下ろしたところ/ここが掘切のクランク部分



そして更に右手(北方向)に続いている



郭2を西側から東方向に見たところ

 video



左手(北側)の土塁を見たところ

 video



その土塁に登って東方向を見たところ



南側で、帯郭にあった抉れを見下ろしたところ

 video



そこで、右手を見たところ



同じく、左手を見たところ



これは東側で、郭1方向を見たところ/手前は郭2と郭1との間の堀切

 video



そこで、左手を見たところ




同じく、右手を見たところ/堀切はこの先で南斜面に繋がっており、縦堀状になって下り落ちている

 video



堀切のすぐ下は一寸した平場となっているが、この更に下(右手)は竖掘状に下り落ちている

 [video](#)



上部の堀切方向を見ると、この段差の部分には石積が施されていた

 video



これが平場の先で南側に下り落ちる豎堀

[video](#)



その先はこんな塩梅

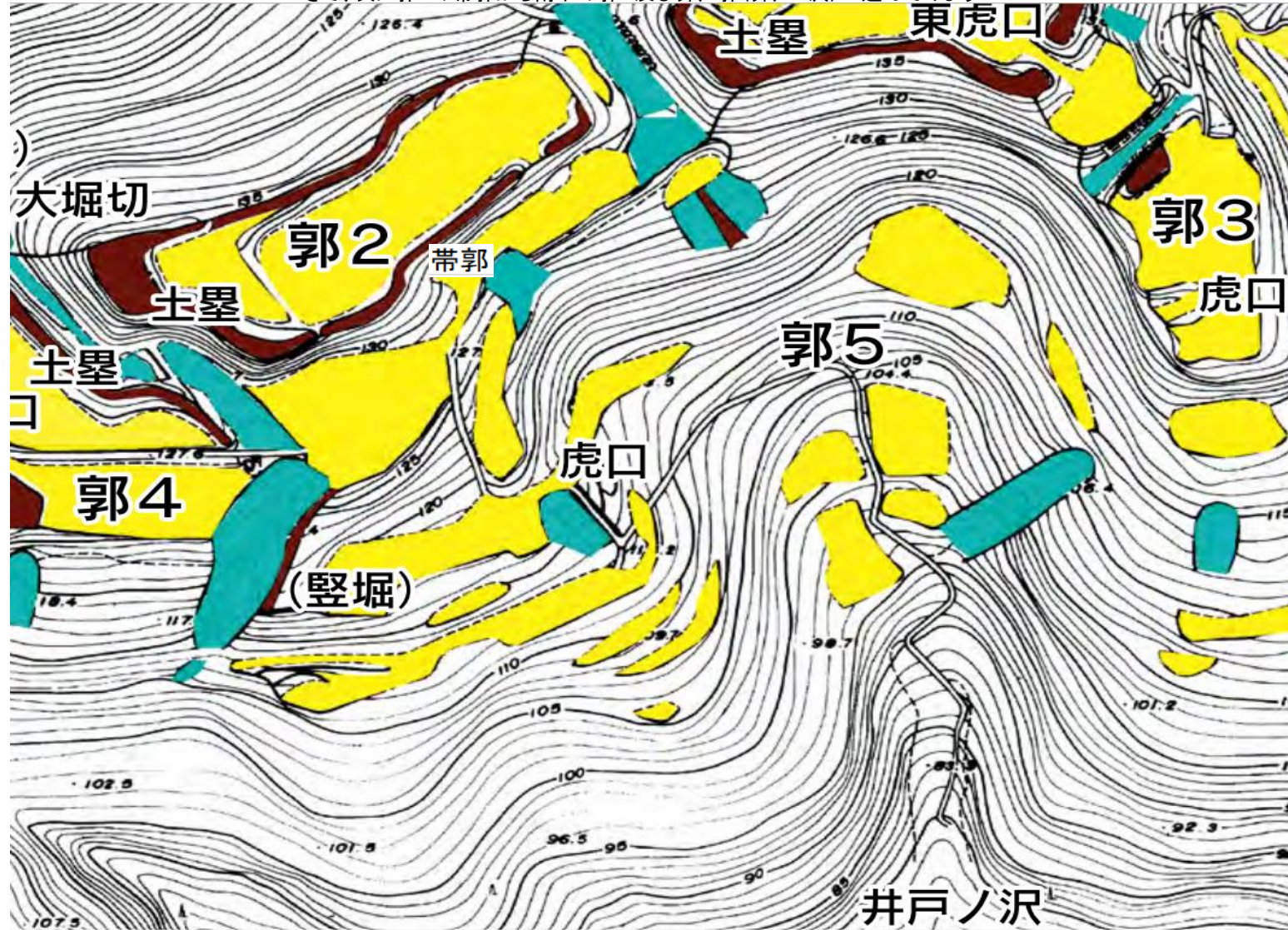
 video




そこで、上部の堀切方向を見たところ



さて、次に郭2の帯郭から南下の郭5及び井戸郭(井戸ノ沢)へ進んでみよう



帯郭のここから南側に下りる

 video



左手を見ると、緩やかな堀と言うか平場のような状況があった



そこで、左手を見上げたところ



同じく、右手を見下ろしたところ

 video



そして更に下ると、ここは縄張図で「虎口」と記されている場所/郭5方向との連絡路のようだ/右手に郭2の帯郭の南下に見えた平場(腰郭・帯郭)がある



これがその平場(腰郭・帯郭)

 video



そこで、右手を見上げたところ/この上部が郭2の帯郭



その平場(腰郭・帯郭)を西方向に進むと、前方にマウンドが見える

 video



そのマウンドに登って下を見ると、これは郭2と郭4との間の堀切(大堀切)から南側に下り落ちる豎堀であった

 [video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



振り返って、東方向を見たところ/左上が郭2の帯郭



さて、先程の「虎口」に戻って、南下を見たところ

 video



この周りにはこのように石積の名残が見られた



更に南側を下ってみよう/右手に窪みが見られる



こんな塩梅/これは堅堀のようだ



その豎堀の下から、振り返って見上げたところ



同じく、少し右手から見上げたところ



さて、右手のここを更に南側に下って進む



すると、右上の先程の平場(腰郭・帯郭)の南下に、もう一段の平場が続いている/やはり、腰郭乃至は帯郭的平場のようだ

 [video](#)



その平場(腰郭・帯郭)を西方向に進んでみる/左下(南側)には更に平場が見える

 video



右手には横堀のような窪みが続いている

 video



振り返って、東方向を見たところ



その右下(南側)を見たところ/何段かの平場が点在しているようだ

 video



さて、東側に戻って更に南側の下って進む



右下が郭5のエリアのようだ

 video




左手に大きく回り込んで、郭5の平場にアプローチする/この下にも、もう一段平場があるようだ

[video](#)



一段下の平場を見下ろしたところ

 video



その平場に下りて進む

 video



これは一段下の郭の切岸を見上げたところ



その右手を見たところ/更に右手の斜面には豎堀が見られる

 video



こんな塩梅

 video



さて、二段の平場から更に南側に行くと、前方の木に案内表示が括り付けられている



「この場所は小字江戸田(エドダ)と小字城山(シロヤマ)の境にあり、江戸田は井戸沢がなまったものと古くから言われ、この場所は水の手と考えられています。雨の多い時期には現在もこんこんと湧水が湧いています。」と記されている [video](#)




下を見ると、こんな塩梅



右手の谷あいを見たところ/こちらから流れている



左手の谷あいを見たところ/この方向に水路が出来ている

 video



振り返って、郭5の方向を見たところ



それではいよいよ、郭1と郭2との間の堀切から郭1の南虎口に進み、郭1の内部を見てみよう



ここが郭1(左手)と郭2(右手)との間の堀切で、左手前に折れて郭1の南虎口へ進む

 [video](#)



これは左手の郭1の城堡(切岸)



左手に折れて進む



ここが郭1の南虎口

 video



振り返って、今来た方向を見たところ/前方は郭2



郭1の内部に入ったところ/左前方(北側)は一段高くなっている/周囲には土塁が回っている



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



振り返って、南虎口を見たところ

 video



これは南虎口の土塁上に登って、郭2方向を見たところ/手前が郭1と郭2との間の堀切

 video



そこで、右手を見たところ



これは土塁上で、北方向を見たところ



同じく、東方向を見たところ

 video



これは郭1の低い地盤のエリア(南側)で南方向を見たところ



そこで、左手を見たところ/東虎口が見える



同じく、右手を見たところ/こちらには南虎口が見える/左手に説明板が立っている



こんな塩梅/前方は南虎口

 video



南虎口と東虎口を結ぶ土塁の内側には、石積みが普請されていたと云う/鉢形城跡の伝秩父曲輪や、箕輪城跡などにも同様の石積みが見られると云う

郭1 (本郭) 石積み遺構

現在は埋め戻してありますが、南虎口から東虎口を結ぶ土塁の内側には、石積み遺構が普請されていることが、調査によりわかりました。



▲ 本郭東側郭石垣位置 (赤丸部分)



▲ 本郭石積み遺構平面図

この城の地山に由来する結晶片岩の石材を使用し部分的に折れをもち、雑壇のように高さ30センチ前後で三段に積みあげて一見、近世城郭の雁木のような形態となります。折れの部分の石裏には結晶片岩の碎石がみられ近世城郭の厚い裏込め程ではないですが排水の措置が施されています。



▲ 本郭石積み遺構 (東から)



▲ 本郭石積み遺構 (西から)



▲ 石積み遺構裏面砕石 (赤線部分)

遺物は、瀬戸美濃編年の大窯2～3期前半の徳利片と在地产の角火鉢片が出土し、この点から石積み遺構は戦国時代後期(16世紀中頃から後半)ものと想定され江戸時代の改修は受けていないようです。この石積み遺構の類例は、埼玉県寄居町鉢形城跡伝秩父曲輪や群馬県高崎市箕輪城跡などにあり戦国時代の山城の様子を伝える貴重な遺構です。(ときがわ町教育委員会)

郭1には4棟以上の建物が存在していたと云う

郭1（本郭）と建物跡

虎口の造り、土塁の規模、すべての城道がこの郭に集まる構造から、この郭が城の中心、本郭に当たることが分かります。また、平成16年度の調査により、郭の中央周辺に3～4棟以上の建物が存在することが判明しています。建物は同一又は直行する向きに展開することが予想され、郭の造成軸とも一致することから総じて企画性の高い内部構造であったことがわかりました。

また、調査で出土した遺物は16世紀前葉から後半で2期以上の変遷を経て存続したことも判明しています。



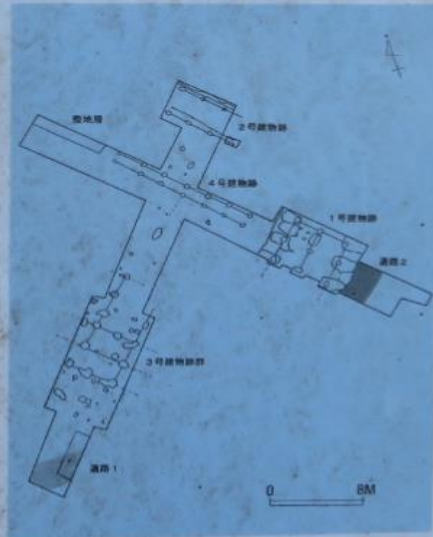
▲ 郭1（本郭）位置図



▲ 郭1（本郭）下段想定建物復元図



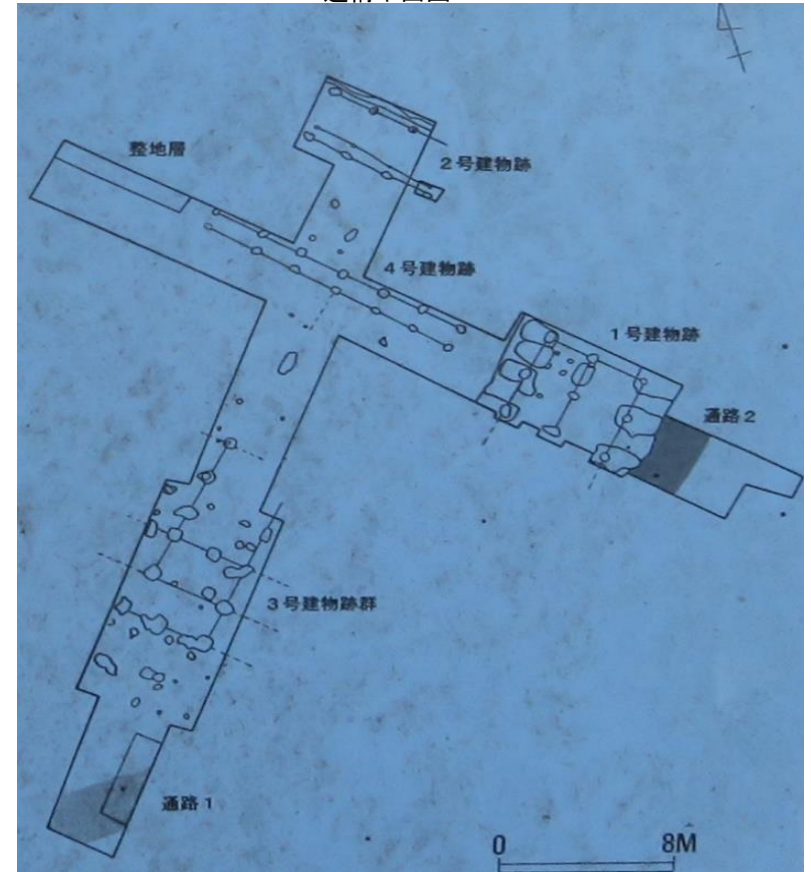
▲ 郭1（本郭）出土白磁・染付・瀬戸美濃製品



▲ 郭1（本郭）平成16年度調査確認遺構平面図

コラム 上図は平成16年度調査に基づき調査区内に見られた柱穴から3棟の建物と1箇所の遮断施設を想定して描いた復元図で、建物の形や規模の詳細は確定したものではありません。調査では、郭1下段に右図のとおり十字のトレンチを設け大小2ヶ所の柱穴と2ヶ所の通路跡を確認しています。まだ未調査区にも柱穴が埋没している可能性は高く、更に建物の広がることも予想されます。

遺構平面図



郭1の低い地盤のエリア(南側)から高いエリア(北側)を見たところ

[video](#)



そこで、左手(西方向)を見たところ



同じく、右手を見たところ/右手は東虎口、左手の虎口状の土塁の切れ目の向こうは、東下への竪堀となっている



説明板や石碑が立っている



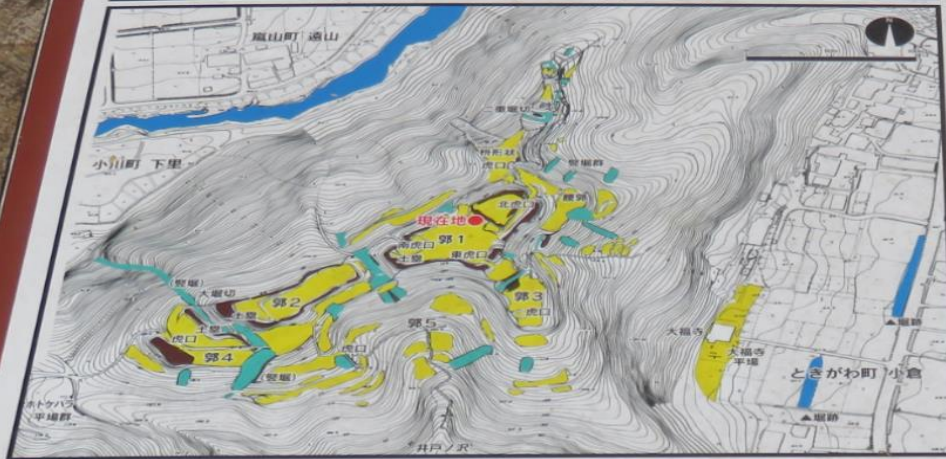


国指定史跡

比企城館跡群 小倉城跡

ときがわ町大字田黒字城山1184ほか
平成20年3月28日指定

◆ 平面図 ◆



◆ 小倉城跡について ◆

小倉城跡は、外秩父の山地と関東平野の境界にあり、大きく蛇行を繰り返す瀬川の先端に構えられている。城跡は立地として瀬川一帯(瀬川-古荒川水系の河川交通を基本に、陸路は鎌倉街道土道と山根筋(八王子-鉢形を経て上州へ抜けるルート)の中間にあり、中世の幹線ルートを意識した位置取りをとっている。

古地と縄張りの構造は、自然地形を巧みに取り込むことにより、同心円的に画された総構空間の中心に、居館と目される山麓の大福寺平場と、その背後に展開する種郭式の要害部分が構成されることである。

要害部分は、南北方向に走る主尾根に沿って、郭1と郭2を並列して配置し、郭1南東と郭2南西を堀切り、郭3、郭4を設ける。郭5は、井戸沢と呼ばれる谷に面している。

郭1は、尾根の最高所に位置し、すべての導線がこの郭に収斂すること、土塁の規模が大きく、虎口の構造も盛重であることから、主郭(本郭)として位置づけられる。この他、堀堀とセツトになったクランク状の導線の折れ、それに組み合わされた塹壕等の技術的に優れた普請が行われている。

城跡の北東へ1.5kmの嵐山町平沢寺には、長享4年(1488)の須賀谷原の合戦の折に山内上杉方の陣所がおかれている。江戸時代の諸記録では、「新編武蔵風土記稿」に、後北条氏重臣遠山氏、「武蔵誌」では、比企戦国史に重要な位置を占めた上田氏を城主としているが、最新の発掘調査による城跡の年代推定は、16世紀前半～後半と判明している。

この城の最大の特徴は、基盤層に結晶片岩の岩盤を持つことに由来する。大規模な石垣普請にある。本郭土塁内堀や虎口部、郭3外面を中心に随所に見られ、総延長150m以上、最大高5mにおよび層々と積まれた様は圧巻で、「石造りの山城」と呼ぶにふさわしい。県内在地系石垣の到達点と評価される。

この城は、石垣、縄張りの点で優れた遺構を今日に伝えており、東国の戦国期中小規模山城を代表する史跡である。また、木の繁茂した現在でも青山城跡や宮谷城跡、松山城跡を目視できる位置関係にあり、山陵と河川の織りなす景観は、比企地方の代表的な中世の景観を今なお色濃く残している。



◆ 主な見所 ◆



小倉城跡航空写真(北より)



郭1土塁内堀石垣(東から)



郭3外面石垣



郭1土塁内堀石垣(西から)



郭1南虎口



枡形虎口



彩の国さいたま
ときがわ町教育委員会
埼玉県教育委員会

— 自然地形の外郭線 — 中世の集落 — 河川

◆小倉城跡について◆

小倉城跡は、外秩父の山地と関東平野の境界にあり、大きく蛇行を繰り返す槻川の先端に構えられている。城跡は立地として槻川—都幾川—古荒川水系の河川交通を基本に、陸路は鎌倉街道上道と山根筋(八王子—鉢形を結び上州へ抜けるルート)の中間にあたり、中世の幹線ルートを意識した位置どりをとっている。

占地と縄張りの構造は、自然地形を巧みに取り込むことにより、同心円的に画された総構空間の中心に、居館と目される山麓の大福寺平場と、その背後に展開する梯郭式の要害部分が構成されることである。

要害部分は、南北方向に走る主尾根に沿って、郭1と郭2を並列して配置し、郭1南東と郭2南西を堀切り、郭3、郭4を設ける。郭5は、井戸沢と呼ばれる谷に面している。

郭1は、尾根の最高所に位置し、すべての導線がこの郭に収斂すること、土塁の規模が大きく、虎口の構造も嚴重であることから、主郭(本郭)として位置づけられる。この他、横堀とセットになったクランク状の塁線の折れ、それに組み合わされた堅堀等の技術的に優れた普請が行われている。

城跡の北東へ1.5kmの嵐山町平沢寺には、長享4年(1488)の須賀谷原の合戦の折に山内上杉方の陣所がおかれている。江戸時代の諸記録では、『新編武蔵風土記稿』に、後北条氏重臣遠山氏、『武蔵誌』では、比企戦国史に重要な位置を占めた上田氏を城主としているが、最新の発掘調査による城跡の年代推定は、16世紀前半～後半と判明している。

この城の最大の特徴は、基盤層に結晶片岩の岩盤を持つことに由来する、大規模な石垣普請にある。本郭土塁内堀や虎口部、郭3外面を中心に随所に見られ、総延長150m以上、最大高5mにおよび累々と積まれた様は圧巻で、「石造りの山城」と呼ぶにふさわしい。県内在地系石垣の到達点と評価される。

この城は、石垣、縄張りの点で優れた遺構を今日に伝えており、東国の戦国期中小規模山城を代表する史跡である。また、木の繁茂した現在でも青山城跡や菅谷城跡、松山城跡を目視できる位置関係にあり、山陵と河川の織りなす景観は、比企地方の代表的な中世的景観を今なお色濃く残している。





史蹟小倉城趾
管轄

地盤の高いエリアで、南側から北方向を見たところ

 video



同じく、南東側から北西方向を見たところ/手前の箱には小倉城跡のパンフレットが入っていた

[video](#)



そこで、右手に北方向を見たところ/土塁に沿って堀が並行しているように見える



同じく、左手に西方向を見たところ/ここで地盤に段差が付いている



そこで、左手(南方向)を見たところ/土塁が周囲を回っているのが見て取れる



ここは北虎口/説明板が立っている

 video



袖部に石積が見られると云う

郭1 (本郭) 北虎口

袖部に結晶片岩の石積みを伴う堅固な虎口です。下の北腰郭へは屈曲したスロープによって接続され、更に桁形虎口、つづら折りの城道へと

連なる入念な造りとなっています。発掘調査では、東側の袖と対になる西側袖の石積みを確認しました。東袖については、北先端の礎石と南北方向の石列、被災痕を検出し、ここに門跡が想定されること、そして2期以上の作り替えがあることが分かりました。東袖造成土中からは瀬戸大窯1期の広口有耳壺片と常滑11期の甍片が出土し16世紀第一四半期から第三四半期頃の普請と作り替であることが判明しています。(ときがわ町教育委員会)



▲ 本郭北虎口位置図 (赤丸部分)



▲ 北虎口西袖石積み (南より)



▲ 北虎口東袖石積み (南より)



▲ 北虎口東袖北端礎石



▲ 北虎口東袖石列



▲ 北虎口出土壺 (常滑11期)



▲ 北虎口出土広口有耳壺 (瀬戸美濃大窯1期)

東側の袖部/石積の破片が散乱している

 video



これが石積の遺構

[video](#)



右手の土塁上に登って、南方向を見たところ

 video



左手には東方向の眺望が開けている

 video



その土塁上を南方向に進む

 video



この土塁の切れ目が、虎口状に見えた東下(左手)の竪堀部分




その豎堀の部分を手右から見たところ

 video



反対側の土塁上から、その豎堀部分を見下ろしたところ

 video



そこで、右手を見たところ/豎堀になっているのが見て取れる/その下には直交する横堀が見える



そこで、振り返って南方向を見たところ/前方は東虎口

 video



その東虎口を見下ろしたところ



右手から東虎口を見たところ/この先には平場があり、その前方に郭3が展開している

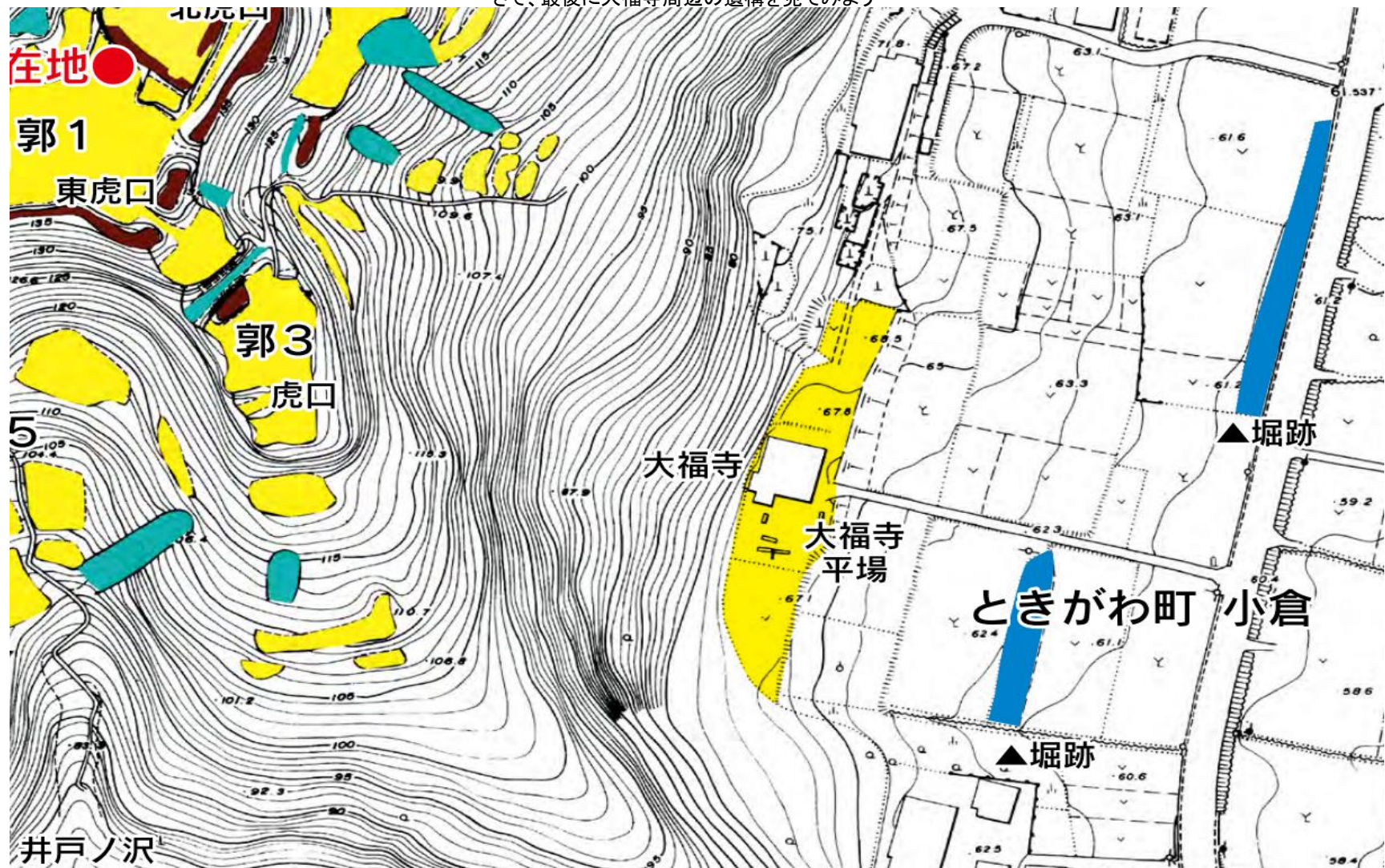
 [video](#)



こんな塩梅/前方に郭1と郭3とを断ち切る堀切があり、その向こうが郭3/手前は東虎口前の平場



さて、最後に大福寺周辺の遺構を見てみよう



前方が大福寺本堂/背後が小倉城跡

 video



そこで、右手を見たところ/この道路沿いに堀跡が検出されているようだ



こちらは本堂寄りの南側にある堀跡部分と思われる

 video



ここは一段高くなった本堂回りの右手の平場



そこから振り返って、南方向を見たところ



こちらは本堂回りの左手の平場/これらの平場には、平時の際の居館などがあったのではと云う

 video



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/131ogura/ogura.html>

<http://yogoazusa.my.coocan.jp/oguratm.htm>

https://www.town.tokigawa.lg.jp/forms/info/info.aspx?info_id=29059

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/b0b550896c39ba18a16bc45377dc5123>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/qi-yu-xian/xiao-cang-cheng>

<https://ameblo.jp/napo-jou/entry-11620909431.html>

<https://ckk12850.exblog.jp/3696047/>

<https://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/ogura-ivo/>

<http://saburou-kanetugu.cocolog-nifty.com/blog/2014/01/post-0737.html>

http://castle.slowstandard.com/08kanto/11saitama/post_361.html

<http://marineblueshirozemetabearuki.blog.jp/archives/32753417.html>

<http://www.siromegu.com/castle/saitama/ogura/ogura.htm>

